

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和7年度第1回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和7年5月29日(木) 午後1時30分から午後2時20分まで
- 3 開催場所 水戸市役所4階 中会議室1～3
- 4 出席した者の氏名
- (1) 委員 金本 節子, 大野 覚, 小森田 龍生, 谷萩 美智子, 大竹 隆志
鹿倉 よし江, 加瀬 理, 加治 光教, 小島 幸子, 菊池 薫
- (2) 執行機関 【市民生活課】課長 入野 高司,
副参事兼課長補佐 鬼沢 隆文,
協働係長 増子 博理, 主事 松川 のぞみ
【生活安全課】空家空地係長 大森 貴広
【高齢福祉課】技佐 海老沢 明子
【生涯学習課】課長補佐 神長 央
- (3) その他 特定非営利活動法人ふるさと空き家相談・サポート
特定非営利活動法人ちいきの学校
一般社団法人水戸葵社中
- 5 議題及び公開・非公開の別 水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」令和6年度
事業報告会(公開)
全体審議(非公開)
- 6 非公開の理由 (全体審議)
- ① 公にすることにより, 当該団体の権利, 競争上の地位その他
正当な利益を害するおそれがあるため。
- ② 公にすることにより, 率直な意見の交換若しくは意思決定の
中立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱
を生じさせるおそれがあるため。
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 3人

8 会議資料の名称 令和6年度実施事業の概要

9 発言の内容

【事業報告会】

事務局	(開会の挨拶, 進行についての説明)
委員長	ただいまから, 水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」の令和6年度実施事業の事業報告会を始める。令和6年度に実施した3事業について, 協働事業者と市担当課から, 事業の概要, 協働による効果, 成果などについて発表していただく。
協働事業者 生活安全課	〔発表: 空き家に関するワンストップ総合相談窓口事業〕
委員	空き家に関する利活用の相談内容や対応方法を教えていただきたい。
協働事業者	単に流通するのではなく地域の方に使ってほしいという所有者と空き家を探しているゲストハウスの事業者2社とのマッチングを試みたが, 貸し手は少しでも高く貸したく, 借り手は少しでも安く借りたいという mismatch が生じ, マッチングは成立しなかった。
委員	前年度と比較して違いはあるか伺いたい。また, 相談を多数受ける中で印象的なストーリーがあれば伺いたい。
協働事業者	前年度と比較し, 担当者の経験が蓄積されたことにより対応速度が早まった。協働事業として貴重な機会を頂けたことに感謝している。また, 生活に困っている高齢の女性の空き家を不動産業者に依頼し, 弁護士を紹介したが, そのお礼として2千円の寄付を頂き, 非常に心にしみた。事業を行っていて良かったと感じた。
委員	2年間の事業を通して空き家の事業について団体と行政の役割が見えてきた。相談対応は早めにできており, 年間60件を超える件数は事業者にとって大変なことであると思う。先程のお話から所有者も心を込めて相談していることが分かったので, 大変だと思うが, 今後も事業を行っていただきたい。
協働事業者 高齢福祉課	〔発表: ドライバーサポートフィットネス「ドラサポ」〕
委員	65歳以上が対象の事業だが, 運動機能と認知機能の向上は75歳以上の後期高齢者の必要性が高いので, 75歳以上の高齢者を多く集めたら良いのではないかと。スタッフ2名で行うには定員15名が限度であるのだろうが, アンケート結果から高評価なため定員を増やすことができると良い。配布している冊子は参加者のみに渡すのか, ポスティング

協働事業者	<p>はどのような対象に実施したのか伺いたい。また、運動機能や認知機能のテスト結果より評価のランクが下がっている参加者がいるが、なぜ下がったのか伺いたい。</p> <p>統計から75歳以上の後期高齢者は事故の割合が高まることは知られており、後期高齢者に講座に参加していただくことは重要であると思っているが、まずは我々の取組を多くの方々に知っていただきたいという狙いがあり、コミュニティセンター等で実施している。今後は対象者をより高齢の方々にすることを検討していきたい。</p> <p>小冊子については、参加者から講座の時はできるが、家で内容を思い出せず継続できないという声があり作成した。経費もかかるため、まずは参加者に運転継続のために配布した。</p> <p>ポスティングについて、水戸市役所やイオンモール水戸内原の開催時は広報みや関係先を通して広報を行い、人を集めることができたが、下入野健康増進センター開催時は人があまり集まらなかったため、周辺にポスティングを行った。</p> <p>ランクが下がった参加者については、継続して参加していない方に見られた。本人の都合で継続参加が難しかったと考えられるが、期間が空いてしまうと習慣化せず、機能の向上が見られなかった。</p>
委員	<p>高齢者は体力の衰えを不安に感じており、参加しやすい雰囲気が大切であると思う。自動車学校よりも商業施設で受ける方が気持ちが軽いのではないかと感じる。参加して良かったと満足度が高いため、参加者の口コミで広がれば他の人も参加しやすく、人数が増えていくのではないと思う。</p>
協働事業者 生涯学習課	<p>〔発表：ふるさと教育「御老公と行く！私たちの水戸」〕</p>
委員	<p>水戸黄門はテレビで再放送されているが、水戸黄門でピンとくる年齢層は高く、若い世代には浸透しづらいと思う。実際に小学校低学年の子どもたちと接し、どの程度認知や理解されていると感じたか。</p>
協働事業者	<p>事業開始当初は、水戸黄門という名前は知られていたが、名前と容姿が一致していないようであった。しかし、事業を実施した小学校の先生方が子どもたちに説明してくれたことが大きく、結果的にほとんどの子どもたちに理解してもらうことができた。</p>
委員	<p>報告書のとおり動画の完成が報告会直前であり、発信はこれからになると思うが、現在公開されている動画の再生回数を見ると、124回や83回であった。水戸市サブチャンネルのYouTubeアカウントを使うことで取組はされていると思うが、再生回数は不十分を感じる。子どもたちと動画を制作したプロセスに意味があると捉えられるが、動画を様々な人々に見ていただき普及させていく必要があると思う。</p>
委員	<p>今回参加した子どもたちは水戸黄門と親しくなったことで他の子どもたちにも広げていこうという傾向は見られたか。</p>
協働事業者	<p>今回水戸黄門を新鮮な角度で捉えていただき、水戸の自慢話となっていると感じた。</p>

委員	<p>水戸黄門は「この印籠が目に入らぬか」の台詞で知られており、テレビの中のヒーローというイメージがある。水戸黄門は水戸で生まれ大日本史を編纂した学者であるが、事業の中で茨城県立歴史館を訪れたのは大日本史を見るためであったのか伺いたい。</p>
協働事業者	<p>その通りである。大日本史については今後もテーマの一つとして取り上げ調査を行い、掘り下げていきたい。</p>
委員	<p>テレビのヒーローだけでなく、水戸全体のヒーローであったことを未来の子どもたちに伝えていただけると誇らしく思う。</p>
委員	<p>水戸のふるさとを代表する水戸黄門をどのように残していくかは水戸市民全体の課題である。</p>